

## 各支店金融報告抜萃

昭和二十二年一月——三月

一 月中

### 一、概況

政局は混迷を続け、三月危機説は地方に迄浸透せる為め、経済界に於ける不安人気が助長している。事実、燃料電力の不足、資材の枯渇は顕著となり、此の爲め生産の停滞、物価の昂騰は通貨不安の再燃と相俟つて、都鄙を通じ換物傾向を瀰漫せしめつゝあり（名古屋、神戸、青森、小樽等）。救国貯蓄運動の成果はあまり捗々しくない（札幌、松江、高松等）。但し、官公庁二・一ゼネストに対しては各地共反対気運強く、特に農村方面に於ては著しいものがある（前橋、鹿児島、松本、秋田等）。

### 二、預金

昨年十一月より開始された第一次救国貯蓄運動は、金融機関の努力にも拘らず目標額に達し得なかつたが、更年後も生産危機説の流布、新円再封鎖の懸念、換物傾向の濃化、貸出抑制による事業者預金の引出等の為め、大阪、函館等一部地方を除き、自由預金の増勢は頗る鈍化した（神戸、広島、松山、岡山等）。尚、福德定期預金は利子付きと云う確実性が買われ、農村方面を中心として消化極めて良好で、新潟支店の報告によれば、総額の六〇％が農漁村で消化された（新潟）。

### 三、貸出

貸出制限に備えて事業資金を借溜めんとする希望多く、土建業の工事資金、綿紡績資金等資金需要が輻輳したが、市中銀行は財産税納入の爲めの預金引出資金の準備もあり、貸出を引締めている（金沢、函館、門司等）。尚、本行の貸出抑制方針に対する反響を伺うに、金融面に於ては、

- (1) 事業資金の借入希望増加し、且つ既存借入金の返済を極力延期せんとする傾向が見られる（大阪、京都、札幌、熊本等）。
- (2) 事業者預金の減少により、自由預金の増勢は鈍化した（大阪、門司、松本等）。

- (3) 貸出金利は銀行の経費増高と相俟つて昂騰している（金沢、広島、甲府等）。
- (4) 復興金融金庫に対する融資の申込が増加した（金沢、名古屋等）。
- (5) 新円所得者よりの直接資金融通が旺盛となり、中小事業者は月利一割五分乃至三割（仙台、松江）、日歩一円（神戸）程度にて必要資金を賄っているが、之が物価騰貴を促進している（札幌、秋田、名古屋、福岡等）。

次に事業面に就て見ると、

- (1) 従来銀行と取引関係を有した中小事業の打撃は甚大で、企業整理は必至とみられるが、新円事業者は何等痛痒を感じていない（各店）。
  - (2) 融資を認められる重点産業への事業転換を図っている（函館）。
- 等の現象が現われている。右に關聯し各地で要望せられている点は
- (1) 重要産業に非ざるも特に地元産業に対し、貸出を認めること（京都、大阪、名古屋、鹿児島等）。

- (2) 貸出金は全額自由貸出とすること（各店）。

- (3) 重点産業への共同融資は本行の強力な斡旋によること（大阪）。

- (4) 銀行の貸出限度に就ては封鎖預金の増加も考慮すること（大阪）。

- (5) 国債の利子引上、償還期限の短縮等条件を改善すること（松江、福島）。

等が主なるものである。

### 四、市中金融機関の金繰

年末資金の還流と為替集中決済制度改正に伴う資金繰の緩和に、地方銀行の手許はコール放出を見る等若干の寛ぎを示したが（福島、静岡、松山、神戸等）、供出米代金立替払に繁忙を続けている農林中央金庫は、食糧証券を本行に売却する外地方銀行よりの資金の取入によつて其必要資金を調達した。

### 五、通貨

年初に於て期待された通貨の還流は極めて悪く、上旬中九億円を減少したに過

きない。十二月中銀行券発行高に対する収縮率は大半の支店が一〇%以下である(松江、岡山、神戸、函館等)。之は年末資金の用途が、供米代金乃至は諸給与支払資金たること、貸出抑制により借入金の返済を回避していることによるものと見られる(名古屋)。

中旬後、供米代金の支払が大量に行われたため、銀行券は再び増加に転じ、特に月末、官公庁二・一ゼネストに対する資金手当もあり、各支店共著しい発行超過を示した。

#### 六、物 価

生産の不振、輸送力の減退等による物価先高見越しに買溜人氣は強く、物価は昂騰の一途を辿っており、特に繊維品、工業原料の騰貴は著しい(金沢、大阪等)。尚、南海大地震の災害地に於ては建築資材も大幅に騰貴し、大工、左官等の賃銀も一日二百円を超えるに至つた(高知)。(黒崎)

#### 二 月 中

#### 一、概 況

官公庁二・一ゼネストは中止されたが、供米不振及び輸送の不円滑による主食の運配は北海道、青森県では二十日を越え(小樽、札幌、函館、青森)、物価も上昇傾向を改めないため、地方に於ても、三月危機やインフレ昂進に対する懸念は一段と深まつた。更に、各地の生産状況を見るに、石炭の生産実績は北海道五十万觔、九州百万觔と夫々目標に比し九四%、九三%に過ぎず(札幌、福岡)、之がため、四国に於ける全塩釜が消火され(高松)、亦、阪神地方の熔鉱炉も一部電気炉を除き、悉く運転休止の余儀なきに至つた(神戸)。斯くて、生産不振と物価先高見越しによる換物傾向は、社会党の新円登録説により拍車を懸けられ、農漁村に迄浸透して来た。

#### 二、預 金

蔵相の七百万の枠撤廃の言明以来、第一封鎖預金棚上説が流布せられ、預金不安が再燃したため、各地共第一封鎖預金より生計費の限度一杯の払戻、株式、保険への逃避が盛んとなつた。特に農漁村方面では、過去数ヶ月分の未払生活費が纏めて引出され(熊本、門司、金沢、高知、神戸等)、亦、新潟市郵便局では引出

激増のため、取扱時間の延長を余儀なくされた程である(新潟)。斯くて、封鎖預金の新円に対する減価率は二〇%より三五%へと再び増大した(函館)。

次に自由預金を見ると、都市方面に於ては比較的順調な増加を示している。例えば、大阪市に於ては月中増加額七億円と記録的伸張振りであるが、之は闇物資取締強化により、商品流通量が激減したため、商社会社方面の資金が滞溜したこと、及貸出規制見越しの借溜、返済延期による余裕金の預入等両建預金が増加したことに原因している(大阪)。然るに、農漁村方面では換物傾向の旺盛化、供米不振による農業会預金への供米代金振込額の減少、肥料農機具購入等春耕資金の引出により増勢も低調である(函館、京都、門司、松本等)。此の傾向は特に農業会預金に於て著しく、熊本支店の報告によれば、二月中農産物供出代金の振込額四千三百万円に対し、払出額は八千四百万円と四千百万円の払出超過となつている(熊本)。

#### 三、貸 出

三月より実施せられる貸出規制を控え、地方銀行の貸出態度は極めて慎重となつた。此のため、地方特殊産業の資金難(岡山)、漁業、木材等季節資金の確保難(札幌)が憂慮されているが、石炭、鉄鋼肥料等重点産業を有する北海道、北九州等では、丙種事業者も直接間接に重点産業に關聯あるものとして樂觀的気分である(札幌、函館)。然し、都市方面に於ては貸出規制により借溜傾向が特に強く、既往貸出の回収困難と相俟つて、一月に劣らない貸出増加高を示した(大阪)。尚、貸出金回収の困難は政府支払の遅延、電力、石炭事情の悪化による生産の不振にも原因が存する。次に貸出金利を見るに、銀行のコスト高と資金需要の旺盛を反映して昂騰の一途を辿つて居り(名古屋)、四国地方を例にとれば、平均一銭八厘三毛と前月に比し一厘方騰貴し、亦最高利率も青森県、奈良県に於ては二銭五厘に迄達している。

#### 四、市中金融機関の金繰

政府資金の撤布は激減し、地方によつては寧ろ税収、食糧払下代金に引揚超過を示した処も少くなかつたが(仙台、秋田、静岡、鹿児島、松山等)、地方銀行は三月に於ける財産税納入による預金引出に備えて貸出を抑制し、余裕資金をコー

ルの放出、地方債の買入に使用した外、第一回復興金融債券の引受を行った(静岡、福島、新潟等)。然し、一部には預金の減少、漁業、木材資金、進駐軍土建工事資金等貸出の増加に窮屈であつた処もある(甲府、松本、前橋、広島、高知等)。亦、農林中央金庫各支所は農業会預金の引出相踵いだ為め、其金繰も依然繁忙を呈したが、本所よりの送金と、地方銀行よりのマネー取入により其必要資金を調達した。

## 五、通 貨

右の如き事情を反映し、本行各支店に於ける銀行券の増勢も一般に鈍化傾向を示し、松江、甲府両支店に於ては、還収超過を示した程である。然し、名古屋、大阪、京都等都市方面では俸給、賃銀支払の枠拡張及び第一封鎖預金棚上説に基く現金需要の増大に、前月を上廻る発行超過となつた(名古屋、大阪、京都、福岡等)。

## 六、物 価

各地共關取引の取締が強化されたが、配給機構が弱体なる為め、徒らに物資の出廻を妨げ、闇値を釣上げる結果に終つてゐる。例えば岡山に於ては、中央市場の青果入荷は従来の二千五百貫より百六十貫に迄激減し(岡山)、新潟に於ては野菜、鮮魚の価格は二、三割方騰貴した(新潟)。又アルミ製品、衣料、紙等は物価先高見越しによる思惑買と、新円不安による換物傾向に顯著な騰貴を示し(松江)、年末一連八百円程度の紙も二月に入つては、千二百円を上廻るに至つた(大阪)。尚、新繭価は夏秋蚕九〇〇掛、春蚕一、一〇〇掛と決定されたが、他の農産物に比し割安にて、養蚕家の不満も大きく、増産意欲も減退してゐる(前橋、松本、福島、熊本)。(黒崎)

## 三 月 中

## 一、概 況

吉田首相のマツクアース元帥に対する書翰の発表は経済界に対し氣分的に若干の好影響を与えた様であるが(熊本、松山)、インフレーションの前途に対しては悲觀的な見透しが圧倒的で、之が次第に農漁村に迄広く、深く滲透する段階に入つて来たことは注目し値する(松江、熊本、名古屋、福井等)。「正直者が馬鹿を

見る世の中」という言葉が流行語となり(京都)、第一封鎖預金棚上説は政府の釈明にも拘らず、各地共未だに払拭されず、新円不安も亦跡を絶たない(熊本)。又取締強化が闇値騰貴に拍車を懸け、貸出規制が地方産業の萎縮を通じてインフレーションに寧ろ逆効果を与える危険な兆候も部分的に現はれてゐる(仙台、函館、神戸、岡山、福島等)。

## 二、預 金

第一封鎖預金棚上説、財産税、増加所得税の支払、及内種部門に対する貸出規制等の悪条件が重つた為め、自由預金増加は懸念せられていたが、結果は必ずしも不良でなく、殊に大都市を中心とする地区に於ては比較的好調を示した(大阪、神戸、名古屋、京都、鹿児島、甲府等)。然し乍ら増加の大半は当座預金であり、財政収支均衡の達成された後も尚ほ増勢を持続し得るや否やは疑問とされてゐる(函館)。

## 三、貸出規制

三月一日より実施の貸出規制の影響に就てはその日浅く、終局的判断を下すには未だ時期尚早であるが、兎に角蓋を明けた処では、顧客との摩擦も見られず、内種部門などは最初から貸出を申込みない状況である(大阪)。之が原因として

- (1) 三月からの規制を見越して二月中に必要以上に貸出を行つたこと(大阪、広島)。

- (2) 規制の手心が分らず、必要以上に貸出を引締めたこと(大阪)。

- (3) 本店審査に廻るものが多くなつた為め貸出の実施までに一定のタイムラグを生ずること(大阪)。

- (4) 第一封鎖預金の著減及既往貸付の返済滞滞による資金の欠乏の為め枠はあつても資金がなきこと(名古屋、大阪、神戸、高知)。

等の諸点が挙げられてゐる。尤も部分的には市中金融機関が限度一杯まで貸出を行つた処もあるが(福井)、大体に於て枠の限度に達しないものが多く、自由預金増加額に対し貸出増加額は名古屋二六%、京都及金沢三〇%、熊本三六%といった程度に止つてゐる。

此の措置に対する反響としては、理論的には概ね異論はないが、その運用上地方産業及見返物資には特別の考慮を払うこと（名古屋、岡山、高知、京都、松山、金沢、札幌）、共同融資は枠外処理とすること（名古屋、松山）、中小工業に対しても特別の配慮を行う要あること（岡山）等が要望されている。然し反面重点業種よりの流用（熊本、高知、松本、小樽）、十万円以下協議不要の悪用（高知）、閥金融の増大（福岡、松江、熊本）、等の弊害が危懼せられている。

一般に高順位業種に対する貸出は収益性回転率、安全性の諸点から見て歓迎せられず（金沢）、本行幹旋の共同融資も若干の成果を挙げてはいるが（松江、松山、金沢）、市中金融機関の之に対する態度は極めて消極的である（名古屋、静岡、松山）。之を要するに今回の貸出規制の成否は預金増加及び既存貸付の回収如何に懸り（名古屋）、その真の反響を見極めるには尠くとも尚一ヶ月の日時が必要であろう（大阪）。

金利も引続き上騰傾向を辿り、日歩平均二銭内外（前月比約二厘高）のものが多く、閥金融の場合は大体月利二割程度に上つてゐる。

#### 四、財産税

財産税納入に就ては約半額は物納と見込まれていた様であるが（例えば仙台五三%、新潟四五%）、三月末迄の実際は、予想に反し物納は極めて僅少であり、更に金納部分中の大半は第一封鎖預金の払出に依つてゐる。例えば石川、福井、富山の三県に於ける月末現在国庫移納手続済額は合計三億四千二百万円の内現金及自由支払分は夫々総額の五%、封鎖支払は九〇%を占めてゐる（金沢）。亦各店共財産税納付関係融資が相当額に上り、納付金額に対し大阪七一%、京都四六%、金沢四一%という割合になつてゐる。

財産税及増加所得税の納入には相当苦慮の跡が窺われ、土地、家屋等の売買が目立つてゐるが、第三国人が實際上課税対象外とせられたことは彼等の地位を競争上、愈々有利ならしめてゐる（函館）。

#### 五、通貨

右の状況を反映し、各店共銀行券の発行超過極めて顕著にして、大半は昨年十二月以来の記録を示している。而して、之が原因としては年度末関係の政府資金

撒布超過、第一封鎖預金棚上説に關聯する生活費引出の増加、春耕資金、選挙資金等の資金需要が重つた上に、貸出から事実上閉め出された低順位産業が自由預金から逃避する傾向を生じたこと（金沢、静岡）等が挙げられるが、一方に於て財産税、増加所得税等によつて民間資金の大口回収があつたにも拘らず、かく銀行券の著増を見たことはインフレーションの底流が如何に根強いものであるかを物語つてゐる。又斯くの如き急激な膨脹に対してすら国民が無感覚になつてしまつたことは注目し得る事実であろう（大阪）。（加藤）

### 昭和二十二年四月——六月

#### 一、概況

四 月 中

衆議院議員総選挙に於て社会党は第一党に進出したが、現下の経済情勢に制約され、其の意図する政策を其儘実施することは困難なりと見る向多く、同党の「新円再封鎖せず」との声明も手伝つて、懸念された通貨不安も起らなかつた（秋田、松山、札幌、静岡、松江、大阪）。亦月末発表された七百円の枠撤廃も新円経済への一歩前進と云う意味で好感を与えたものの（熊本、鹿児島）既に予想されていた処で、格別の影響も認められなかつた（札幌、静岡）。生産は依然として低調に終始し、北海道、九州に於ける出炭高は夫々五十五万噸、百十五万噸と前月を下廻つた（札幌、福岡）。従つて地方産業も燃料不足、原料枯渇に悩むもの多く、四国製塩業の如きは能率上がらず赤字に苦しんでゐる（高松）。岡山県下の衣料工場は多数のミシン機械、従業員を抱え今後の対策に苦慮してゐる（岡山）。次に強権発動を見るに至つた供米状況を見るにその成績は依然芳しくなく、殊に米作地帯たる新潟、秋田両県に於ては月末迄に漸く割当量の九〇%、九四%に達したに過ぎず（新潟、秋田）超過供出を見た府県に於ても輸入食糧の放出にも拘らず遅配を見る等（松山、甲府、前橋）地方の食糧事情も樂觀を許さないものがある。

#### 二、預金

財産税、増加所得税と相踵ぐ納税資金の引出に第一封鎖預金は引続き減少の一